

令和7年度 『保育者として働く卒業生対象のアンケート調査』 報告書

駒沢女子短期大学
自己点検・評価委員会

1. 調査概要

(1) 調査目的

本調査は、駒沢女子短期大学・保育科の卒業生が獲得した学修成果（「保育者」及び「社会人」として求められる資質・能力）について、その後の経過を把握し、本学の教育活動（学修活動）の効果を検証することを目的に実施した。

(2) 調査時期：2026年1月～2月

(3) 調査対象：本学卒業後、保育者として働く経験年数5年目までの卒業生214名 ※有効回答数：45名（約21%）

(4) 調査方法：オンラインによる質問紙調査（Google Form） アンケートフォームのQRコードが記載された案内文書を送付し回答を求めた。

2. 調査内容

(1) 卒業生の基本情報

①氏名

②経験年数：1年目～5年目（令和2年度～令和6年度に本学を卒業した卒業生）

③取得資格：幼稚園教諭二種免許状・保育士資格・取得なし

④勤務先：幼稚園・保育所・認定こども園・施設

⑤雇用形態：正規・契約・派遣・パート・転職予定・退職予定

(2) 「保育者」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「保育者」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全21項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「4. 非常にそう思う」「3. とてもそう思う」「2. そう思う」「1. そう思わない」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「教育・保育・支援の基礎知識を理解している」

「子ども（利用者）の姿を客観的に捉えることができる」

「自分で指導（支援）計画を立てることができる」

(3) 「社会人」として求められる資質・能力

本学での学修活動（教育活動）を通じて獲得した「社会人」として求められる資質・能力について、古屋・川口・村野（2017）が作成した全15項目からなる自己評価式の尺度を使用した。卒業生には、各項目について「今のあなたは、どの程度、発揮（実践）できると思いますか」と尋ね、「4. 非常にそう思う」「3. とてもそう思う」「2. そう思う」「1. そう思わない」の4件法で回答を求めた。

（項目例）「適切な文章表現力がある」

「正しい生活習慣が身についている」

「自分から進んで協力することができる」

(4) 本学の教育活動に関する意見（自由記述）

①本学の教育活動において最も印象に残っていること

②本学在学中に学修したかったこと

③卒業生を対象とした研修会『フォローアップ・セミナー』において取り扱ってほしい内容

3. 調査結果

(1) 保育経験（卒業年度）

令和7年度の調査に回答した45名の卒業生の経験年数は図1に示す通りである。2年目12名（令和5年度卒業生）が26%と最も多く、3年目（9名：20%）、1年目・4年目・5年目（各8名：18%）と続いた。

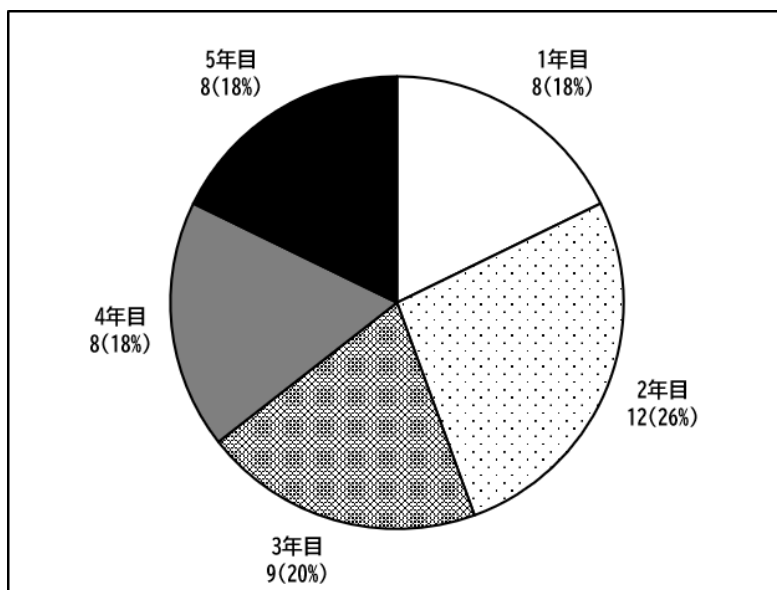


図1. 経験年数ごとの卒業生の内訳

(2) 資格取得状況（幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格）

令和7年度の調査に回答した45名の卒業生の資格取得状況は図2に示す通りである。

全体の96%（43名）が、幼稚園教諭二種免許状及び保育士資格を両方保持していることが分かった。

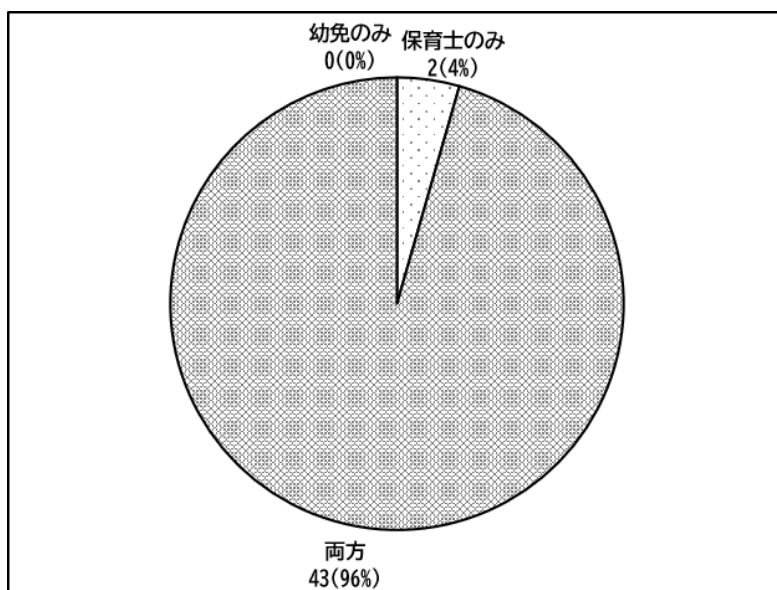


図2. 卒業生の資格取得状況

(3) 現在の勤務先と雇用形態

①勤務先

令和7年度の調査に回答した45名の卒業生の勤務先は図3（次ページ）に示す通りである。

現在の社会情勢からもうかがえる通り、保育所で勤務する卒業生が全体の56%（25名）と最も多く、認定こども園が20%（9名）、幼稚園が13%（6名）と続いた。施設は回答者全体の11%（5名）であった。

次ページに図3が続く

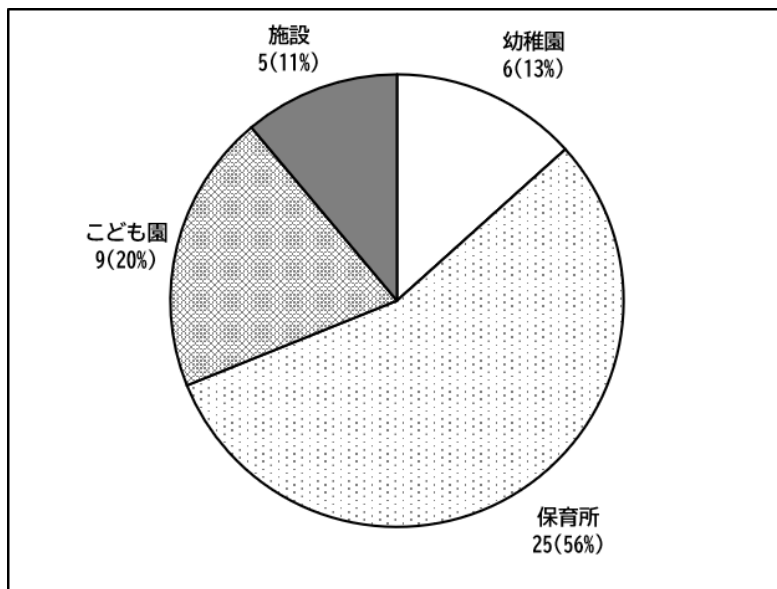


図3. 卒業生の勤務先内訳

②雇用形態

令和7年度の調査に回答した45名の卒業生の雇用形態は図4に示す通りである。

正規（フルタイム）職員として勤務する卒業生が最も多く、全体の93%（43名）を占めていた。また、退職予定の卒業生が5%（2名）、転職予定の卒業生が2%（1名）いた。なお、本年度はパートタイムで勤務する卒業生はいなかった。

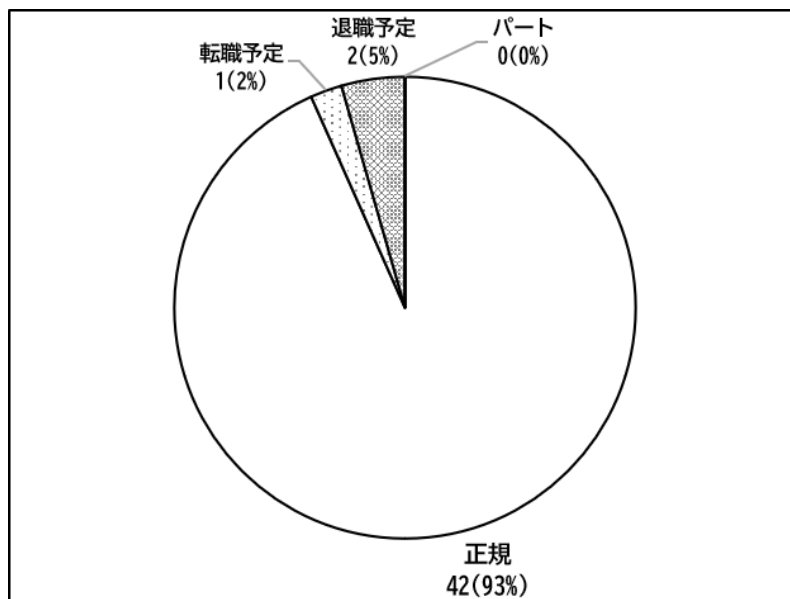


図4. 卒業生の雇用形態

(4) 保育者として求められる資質・能力

保育者として求められる資質・能力（本学の学修成果「遊び力」と「表現力」に相当）について、現在、どの程度発揮（実践）することができているか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、子ども（利用者）の「④幸せを最善に考えること」「⑤思いの共鳴」「⑥個性の受容」「⑦信頼関係の構築」「⑨権利の尊重」「⑩子ども（利用者）の姿の理解」「⑪子ども（利用者）の成長課題の把握」「⑰遊び（活動）を共に楽しむこと」は、発揮（実践）できていると高く自己評価する卒業生が多かった（全体平均が3.00以上の項目）。この結果から、卒業生は、子ども（利用者）の幸せを願いながら、それぞれの思いや個性、成長課題などの理解に努め、一人ひとりに寄り添うことを意識した保育実践を積み重ねていることがうかがえた（図5）。

また、「①教育・保育・支援の意義や目的の理解」「②教育・保育・支援の基礎知識の理解」「③教育・保育・支援の基礎技能の獲得」「⑬特別な配慮が必要な子どもの特性の理解」「⑭様々な家庭環境の想像」は、年次を追うごとに増加傾向が見られた。これは、卒業生が、教育・保育・支援に関する基礎的な知識・技能を発揮するだけではなく、多様な子ども（利用者）の姿や家庭環境にも思いをめぐらせる重要性を意識したことをうかがわせる。同様に、「⑮様々な遊び（活動）を知っている」という項目についても増加傾向が見られた。これは、学修成果「遊び力」の涵養を意図して開講した領域に関する専門的事項『子どもと〇〇』の学修経験によるものと考えることができる。

その一方、「⑱音楽」や「⑳造形」を通した自由表現については、例年と同じく自己評価が低かった（全体平均が中央値の2.50未満の項目）。これは、本学の学修成果「表現力」が十分に発揮されていないことを示している。このような結果も踏まえ、本学では、表現系の授業科目の統廃合を行った。今後は、この「表現力」を含めた学修成果全体の見直しとカリキュラムの再構成が必要と考えている。

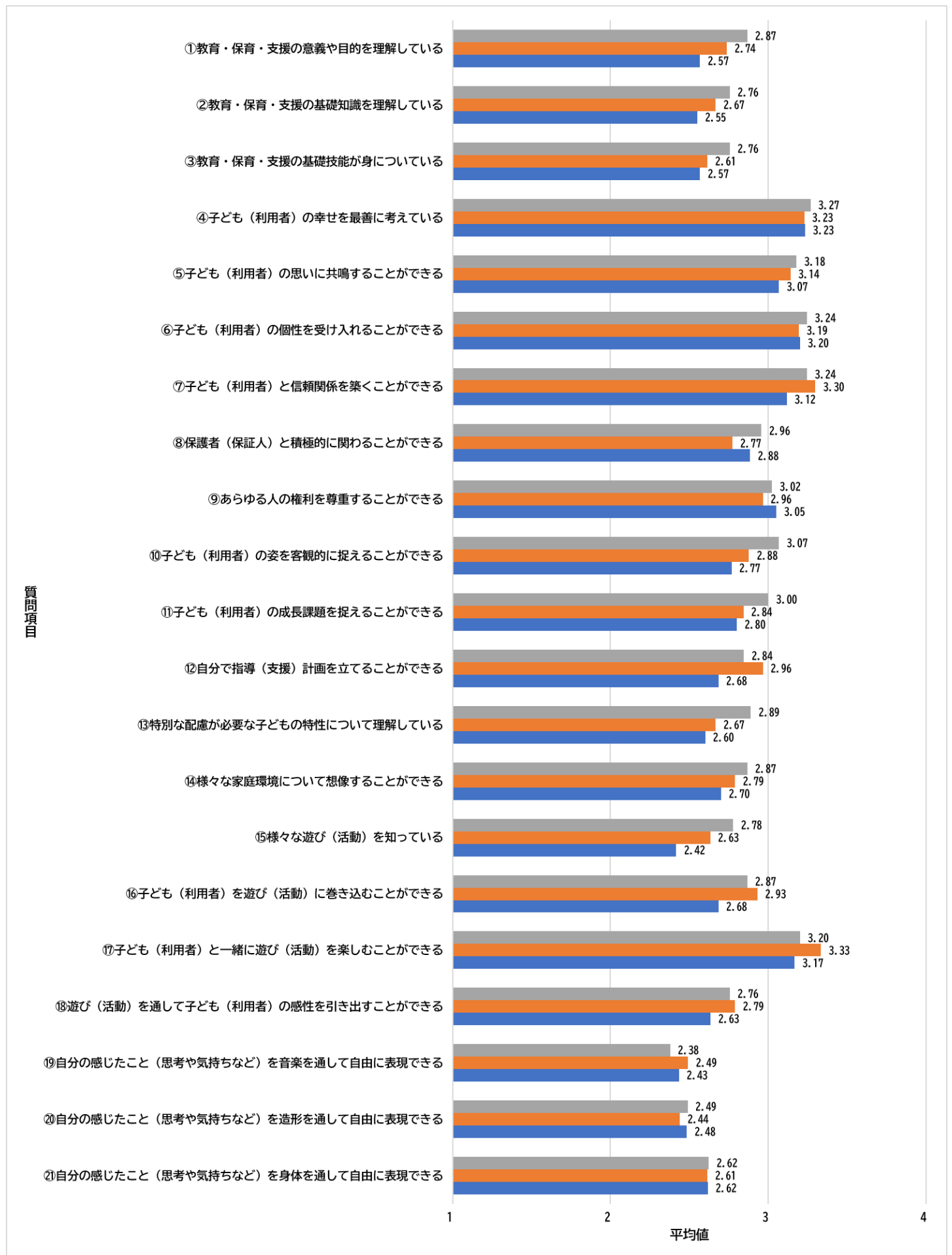
(5) 社会人として求められる資質・能力

社会人として求められる資質・能力（本学の学修成果「思考力」と「人間力」に相当）について、現在、どの程度発揮（実践）することができているか、卒業生自身に評価してもらった。

その結果、「④心身の健康管理」や、「⑥自然への興味・関心」「⑦自然や美しいものに感動する心」「⑫人の気持ち考えること」「⑭他者を思いやる気持ち」「⑮自分から進んで協力する」については、全体平均が3.00を超えており、卒業生の自己評価が比較的高かった（図6）。

また、これまでは自己評価が低かった「①適切な文章表現力」「⑧積極性」「⑨前向きさ」「⑩物事を客観的に捉える」「⑪物事の問題や課題への気付き」については改善がみられた。これは、基礎学力テストの結果を受けた学習支援の導入や、現代の保育課題を取り上げた授業科目における学びの成果と考えることができる。保育のニーズもますます多様化している中で、保育者には、主体的（積極的）に自己研鑽を積み重ねる姿勢が求められている。基礎学力の定着や、現代の保育実践に関する課題を学ぶ授業科目の充実には継続して取り組んでいきたい。

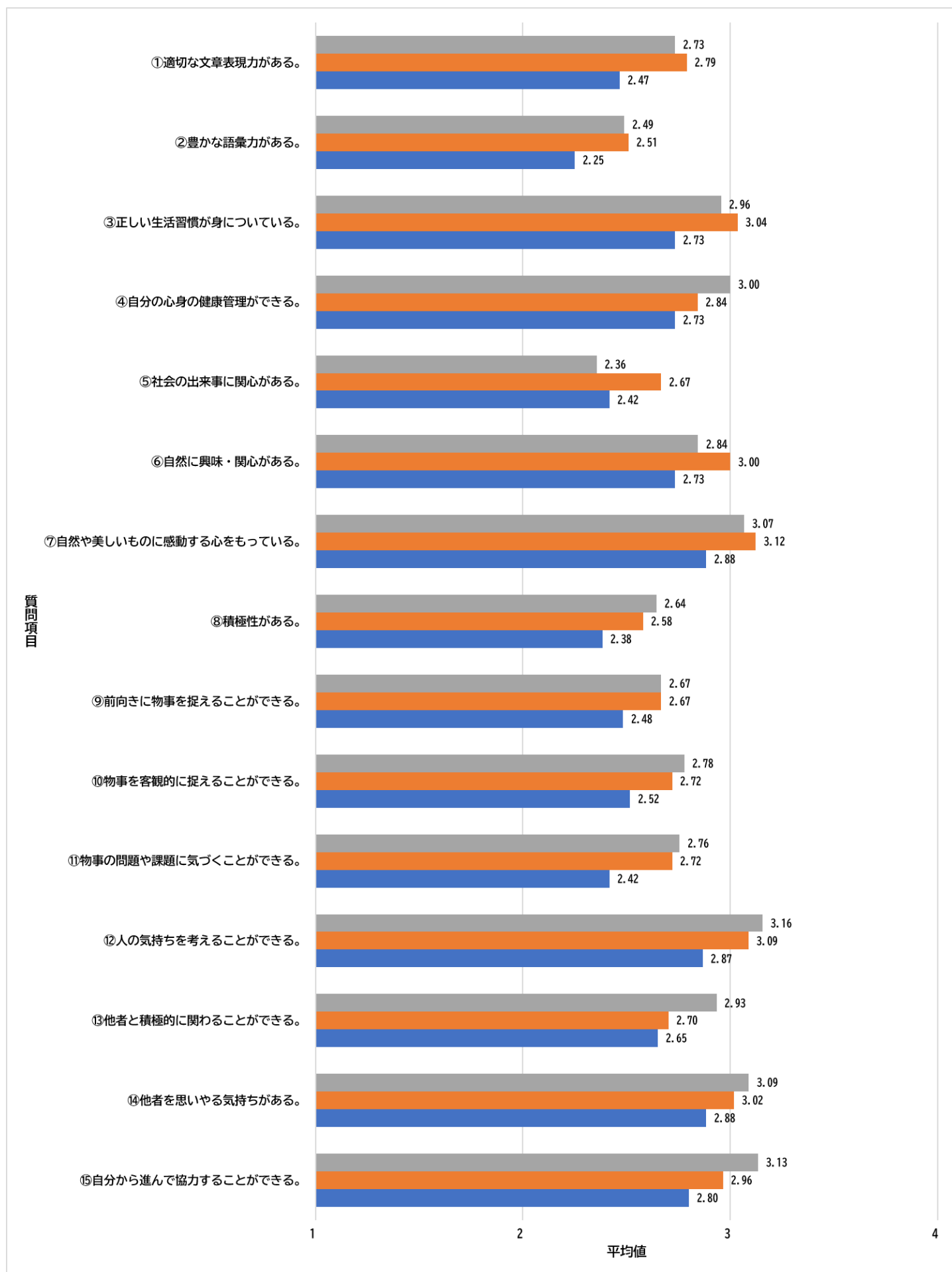
次ページ以降に図5・図6が続く



※1：グラフ上段（灰色：令和7年度）・中段（オレンジ色：令和6年度）・下段（青色：令和5年度）

※2：表中数字「4：非常にそう思う」「3：とてもそう思う」「2：そう思う」「1：そう思わない」

図5. 「保育者」として求められる資質・能力の平均値



※1：グラフ上段（灰色：令和7年度）・中段（オレンジ色：令和6年度）・下段（青色：令和5年度）

※2：表中数字「4：非常にそう思う」「3：とてもそう思う」「2：そう思う」「1：そう思わない」

図6. 「社会人」として求められる資質・能力の平均値

(6) 本学の教育活動の中で印象に残っていること

本学の教育活動において最も印象に残っていることを尋ねた結果、全30件の回答が得られた。その内訳は図7の通りである。最も多かった回答は、造形活動（15件：50％）であった。次いで、自然活動（5件：17％）、授業全般（4件：13％）と続いた。

この他、実習（2件：7％）や、運動会や体育授業などの身体活動（2件：7％）も多かった（表1）。

いずれの活動も、本学を代表する活動であり、学修成果「表現力」「遊び力」の獲得を促すことを意図して設けた授業科目や学校行事である。これらの教育活動が卒業生の印象として残っていることも念頭に、新しい保育者養成課程の編成を検討していきたい。。

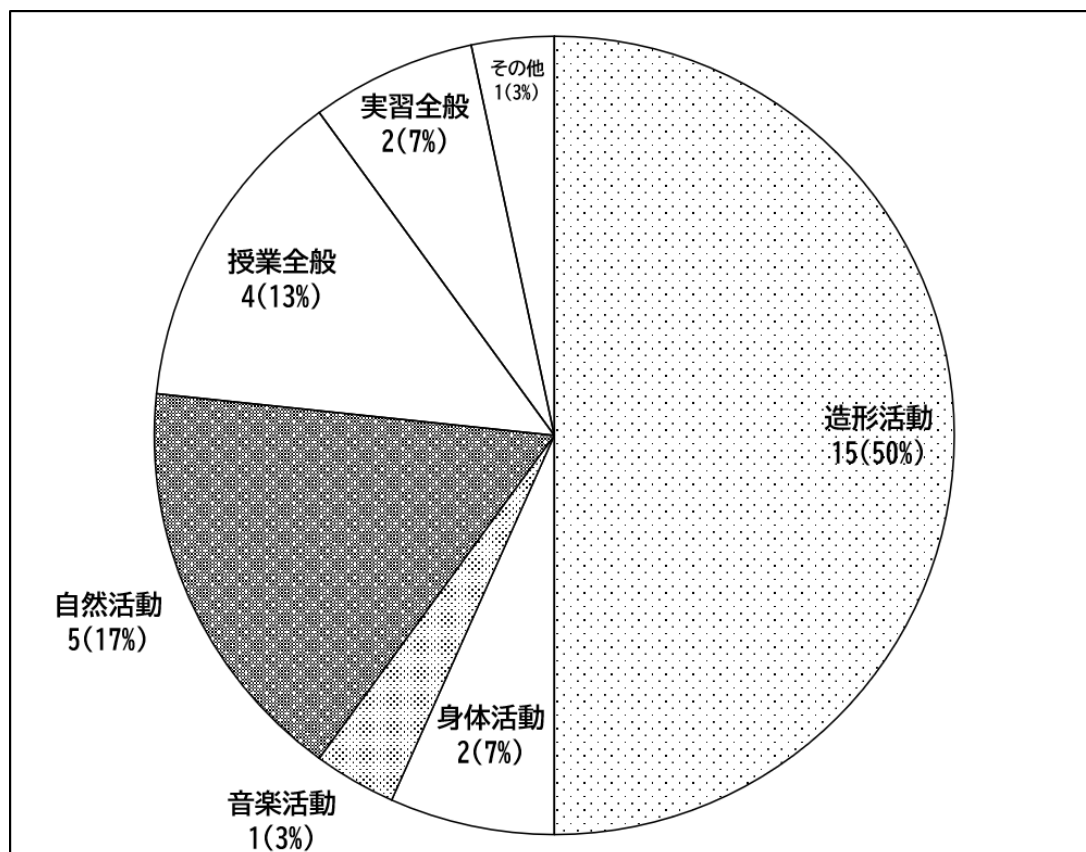


図7. 本学の教育活動の中で印象に残っていること

表1. 本学の教育活動の中で印象に残っていることの回答例

分類	回答数	%	回答例
造形活動	15	50.0	造形, ダンボール制作展, りんどう祭など
身体活動	2	6.7	身体表現発表会, 運動会など
音楽活動	1	3.3	ピアノ
自然活動	5	16.7	焼き芋大会, 自然の顔探し
授業全般	4	13.3	保育者論, 保護者対応など
実習全般	2	6.7	実習, 実習指導
その他	1	3.3	座禅
合計	30	50.0	

(7) 本学在学中にもっと学修したかったこと

卒業生が在学中にもっと学修したかったこと（全28件の回答）を集約した結果は、図8の通りである。

最も多かったものは遊び（6件：22%）と保育の進め方（6件：22%）であり、子どもたちと行う遊びの引き出しやその発展方法を学びたかったと回答した卒業生がいた。次いで、ピアノ演奏や手遊びのレパートリーを増やせる音楽活動（3件：11%）や、保育後の仕事内容や挫折経験からの乗り越え方など、保育現場で働く保育者と関わる機会（3件：11%）を求める意見も挙がった。

その一方、毎年、多く挙げられる特別支援（2件：7%）は少なかった。養成校だけではなく、保育現場における学修機会の充実もうかがえる。ただし、子どもの病気への対応や、児童養護に関する学修機会を求める声は昨年と同程度であり、依然として現代の保育課題としてのニーズの高さがうかがえた。

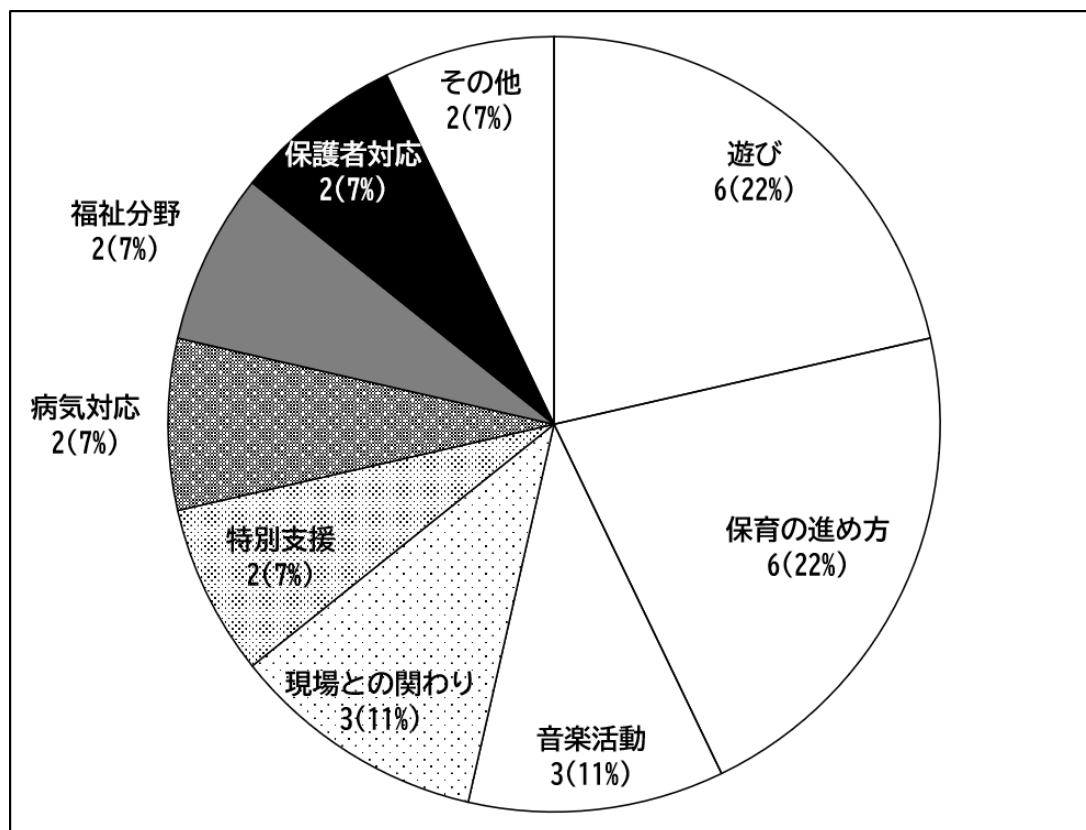


図8. 本学在学中にもっと学修したかったこと

表2. 本学在学中にもっと学修したかったことの回答例

分類	回答数	%	回答例
遊び	6	21.4	子どもの遊び（室内遊び、集団遊び）の種類、遊びの発展方法
保育の進め方	6	21.4	子ども理解、子どもの注目の集め方、保育者の言葉かけ、環境構成
音楽活動	3	10.7	ピアノ演奏、手遊び
現場との関わり	3	10.7	保育現場（先輩）の話を聞く機会、保育後の仕事内容、子どもと関わる機会
特別支援	2	7.1	特別な支援を要する子どもへの支援方法（言葉かけ）
病気対応	2	7.1	子どもが罹りやすい病気、嘔吐処理
福祉分野	2	7.1	児童養護施設の実態、社会福祉
保護者対応	2	7.1	保護者対応、保護者への言葉遣い、保護者支援
その他	2	7.1	パソコン、心理学
合計	28	100.0	

(8) 卒業生対象のフォローアップ・セミナーの要望

- 特別な支援を要する子どものいるクラスづくり
- 子どもの主体性を大切にした保育
- 保護者支援（保護者対応も含む）
- 家庭支援
- 保育者間の連携の大切さ等

(9) 本学の教育活動に関する意見・要望

- 大変お世話になりました。在学中に学んだことを現場で実践するのが楽しみです。ありがとうございました。

以上

駒沢女子短期大学
自己点検・評価委員会